



平成26年12月17日

医療や健康づくりにかかわる研究、教育、人材育成、地域連携等の協力を進めるため、独立行政法人国立循環器病研究センターと関西大学が

包括協定を締結します。

独立行政法人国立循環器病研究センター(理事長:橋本 信夫、以下「国循」と言います)と関西大学(学長:楠見 晴重)は、医療や健康づくりにかかわる研究、教育、人材育成、地域連携等について相互の協力を進めるため包括協定を締結します。国循が移転先の健康医療のまちづくりに関して大学と協定を締結するのは初めてです。

【本協定の概要】

(協定締結の目的)

国循は、国の医療政策と一体となって国民の健康を守るため、1977年(昭和52年)に設立された国立高度専門医療研究センターで、日本における循環器病の研究及び治療機関の最高峰の一つとして知られています。国循は、平成30年度を目途に吹田操車場跡地(JR京都線「岸辺駅」前)へ移転し、循環器病の予防と制圧を図る等の観点から、移転周辺用地を含めて、地元自治体等とも協力して、医療クラスターの形成を目指しています。

関西大学は、1886年(明治19年)に関西法律学校として開校され、現在は13学部と13の大学院研究科と3専門職大学院、そして留学生別科を擁する関西屈指の総合大学として発展しており、2012年(平成24年)から国循とは連携大学院協定を締結して生命科学に関する研究・教育を進めています。また、国循と同じ吹田市に存するという地理的利点を活かし、医工連携・産学官連携や健康医療のまちづくりを目指すという観点から、吹田操車場跡地での医療クラスター形成に積極的に協力し、地域への貢献を目指しています。

今回は、両機関が医療や健康づくりにかかわる研究、教育、人材育成、地域連携等を進めるため包括協定を締結し、相互の人的、知的、物的資源の交流と活用を図り、医工連携・産学官連携を基本に、医療・ヘルスケア産業の発展や健康づくりに関する取組みを進めます。

(今後の取組み)

両機関は、速やかに実務代表者からなる「国立循環器病研究センター・関西大学連携推進協議会」を設置し、定期的に、協力連携について具体策の検討や進捗状況の確認等を行い、本協定を実効あるものにするためにフォローアップをすることとしています。

また、関西大学は、健康医療のまちづくりに寄与するために、自治体、企業、NPO等と協力して、健康医療まちづくりのための研究開発・社会実験、人材育成プログラムの開発等を行う「関西健康医療まちづくりフューチャーセンター(仮称)」を国循の移転周辺用地において設置運営することを検討しており、国循はこれに協力を行います。

お問い合わせ先

国立循環器病研究センター

総務課 広報係 岡崎

06-6833-5012(2116)

関西大学

広報課 中川

06-6368-0007(直通)

住民の健康研究拠点

国循、関大と包括協定

吹田・摂津に

国立循環器病研究センター(国循)と関西大学は24日、地域連携などの包括協定を結び、住民の健康を維持するための研究拠点と組織を設けると発表した。国循は2018年度にも旧国鉄吹田操車場跡地(吹田市・摂津市)に移転する予定で、吹田、摂津の両市や企業、NPOなどと協力して移転先にこの研究拠点を設置する。

研究拠点と組織は「関西健康医療まちづくりフューチャーセンター(仮称)」と名付け、先端的

な研究開発や社会実験、人材育成プログラムを通じて住民の健康づくりを進める。

国循は住民の健康状態

協定は地域連携のほ

をビッグデータに収め、日常の暮らしを分析して病気を予防するモデル事業を希望している。

か、医療や健康にかかわる研究、教育、人材育成などを進める。例えば医療機器や医療システムの研究開発、医療・ヘルスケア産業の人材育成でも協力する。国循と関大は12年度から、国循研究員が関大院生を指導する連携大学院を設けるなどの取り組みをしてきた。

[研究開発]

2014年12月24日
富士通株式会社

健康長寿社会の実現に向け、 高度医療研究機関との共同研究に関する協定を締結 ～ICT 活用による疾患予防・克服などのモデル構築と普及を目指す～

当社は、このたび、健康長寿社会の実現に向け、以下の3国立高度専門医療研究センター、および1大学と、それぞれ、ICT 技術を活用した医療モデルの構築と普及を目的とし、共同研究を行う協定を、締結しました。

【3国立高度専門医療研究センター】

- ・独立行政法人国立がん研究センター(所在地:東京都中央区、理事長:堀田 知光、以下、国立がん研究センター)様
- ・独立行政法人国立循環器病研究センター(所在地:大阪府吹田市、理事長:橋本 信夫、以下、国立循環器病研究センター)様
- ・独立行政法人国立長寿医療研究センター(所在地:愛知県大府市、理事長:鳥羽 研二、以下、国立長寿医療研究センター)様

【大学】

- ・大学法人東京医科歯科大学(所在地:東京都文京区、学長:吉澤 靖之、以下、東京医科歯科大学)様

3国立高度専門医療研究センター各々との共同研究では、日本人の死因上位を占めるがん・循環器疾患・認知症などの疾患の予防と克服を目的とし、それぞれの機関の特色に沿った研究を行います。

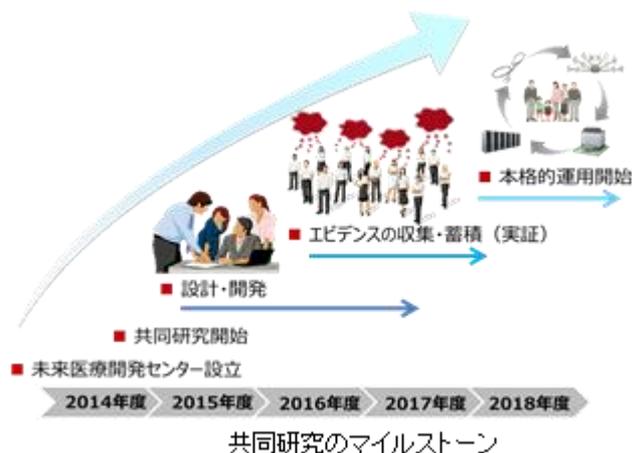
また、東京医科歯科大学様との共同研究では、疾患の重症化予防の鍵となる医療分野のビッグデータ解析手法の開発を行います。

当社は、今後、2015年3月をめどに各機関との研究内容を具体化し、共同研究を開始する予定です。

【背景】

当社は1970年代に医事会計システムの提供を開始して以来、国内最大級のSE体制を整備し、医療機関の診療と経営の安全に貢献する医療情報システムを数多く構築してきました。

この実績に基づく技術とノウハウを、政府の日本再興戦略のテーマの1つである「国民の健康寿命が延伸する社会の実現」に活かすため、2013年12月に未来医療開発センターを設立しました。同センターでは、ICT 活用による国民の健康増進、重症化予防、疾患の早期発見、新薬創出、個別化医療などの実現について、国内外の高度医療研究機関や専門家と検討を重ねてきており、今回、4つの高度医療研究機関それぞれと、共同研究に関する協定を締結しました。



【研究内容】

1. 国立がん研究センター様(NCC)

- (1) 研究内容: がんのメディカル・ゲノムセンター機能(注1)に必要なゲノム情報と診療情報の統合。
- (2) 役割分担:
 - NCC: がんのゲノム医療の現場に必要な、患者への研究のための説明と同意取得、患者ごとのがん細胞と正常細胞のゲノム情報の解析、その医学的意義付けと報告
 - 当社: 高度なセキュリティとアクセシビリティを両立させたゲノム医療システム基盤の検討・実証
- (3) 体制:
 - NCC: 研究所など
 - 当社: 未来医療開発センター
- (4) 期間、および成果物: 2016年度末までにがんのゲノム医療実施体制のプロトタイプを整備予定。
- (5) 期待できる効果:

がんの治療、および予防・先制医療について、最新のゲノム医科学とICT技術、および知識を動員したゲノム医療の実現化。

2. 国立循環器病研究センター様(NCVC)

- (1) 研究内容: 循環器疾患の克服・制圧に向け、生活習慣(食事・運動・睡眠・口腔ケアなど)のデータを解析し、行動変容を促す新たな介入方法や効果判定法を開発。
- (2) 役割分担:
 - NCVC: 計画立案、データの収集と分析
 - 当社: 健康医療情報の記録用データベース構築と解析システムの開発
- (3) 体制:
 - NCVC: 研究開発基盤センター(予防医学・疫学情報部、知的資産部)など
 - 当社: 未来医療開発センター
- (4) 期間、および成果物:

2018年度末までに、エビデンス構築(注2)とプログラム開発を完了することを目標とする。
- (5) 期待できる効果:

循環器疾患の発症・重症化の予防や先制医療など、ICTを活用した新規医療サービスや健康関連ビジネスの創出。

3. 国立長寿医療研究センター様(NCGG)

- (1) 研究内容: 認知症の早期発見システムの構築など。対象者の医学的情報と日常生活情報を蓄積し、そのビッグデータから認知症の予兆を予測するための技術を確立。
- (2) 役割分担:
 - NCGG: フィールド管理、計画立案、データの収集と分析
 - 当社: データ収集基盤整備、解析システムの開発
- (3) 体制:
 - NCGG: 生活機能賦活研究部
 - 当社: 未来医療開発センター
- (4) 期間、および成果物:

2018年度末までに、認知症の予兆を発見するシステムを開発することを目標とする。

(5) 期待できる効果:

ビッグデータを活用した認知症の早期発見による早期治療や予防システムの構築を図り、
関連サービスや新規ビジネスを創出。

4. 東京医科歯科大学(TMDU)様

(1) 研究内容: 網羅的生体分子情報(以下、オミックス)(注3)を統合したデータベース、および解析技法の確立。オミックスを基盤とした次世代医療システムに関する情報収集方法と情報構築方法の研究を行う。

(2) 役割分担:

TMDU: 計画立案、データの収集と分析

当社: データ収集基盤の整備、解析システムの開発

(3) 体制:

TMDU: 東京医科歯科大学大学院

当社: ヘルスケア・文教システム事業本部ライフイノベーション事業部

(4) 期間、および成果物:

2014年度末までに、プロトタイプを作成することを目標とする。

(5) 期待できる効果:

臨床情報・網羅的生体分子情報(オミックス)・生活習慣情報を効果的に収集する手法、
および構築形式の確立と、臨床現場での個別化医療を実現する分析手法の開発。

【 商標について 】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

【 注釈 】

(注1) メディカル・ゲノムセンター機能: エビデンスの高い解析結果を基に、医薬品効果予測による治療選択、
適切な予測診断の確立、および遺伝リスクに応じた予防的医療に関する臨床応用を目指した取り組み。

(注2) エビデンス構築: 医学的エビデンスに基づき構築される情報基盤。

(注3) 網羅的生体分子情報: ゲノムをはじめとする生物の体内にある分子の網羅的情報。

【 関連Webサイト 】

<http://jp.fujitsu.com/solutions/medical/nhic/>(未来医療開発センター紹介ページ)

《お客様お問い合わせ先》

当社コンタクトライン

電話 : 0120-933-200

受付時間 : 9時~17時30分(土曜日・日曜日・祝日・年末年始を除く)

循環器疾患の予防・制圧に向けた生活習慣 のビッグデータの解析と介入方法の開発

(独)国立循環器病研究センター
理事長・総長 橋本 信夫

ICT利活用による健康情報の管理



共同研究の目標

- 生活習慣(食事・運動・睡眠・口腔ケアなど)のデータを収集・解析し、行動変容を促す新たな介入方法や効果判定法の開発(H27-30年度)

①役割分担

国循: 計画立案、データ収集及び分析、国民医療への還元

富士通: 電子健康記録のデータ収集システム・解析システムの開発

②体制

国循: 研究開発基盤センター(予防医学・疫学情報部、知的資産部)等

富士通: 未来医療開発センター

③期間および成果物

H30年度を目標に上記のエビデンス論文作成およびプログラム開発

④期待できる効果

循環器病の発症及び重症化予防、有効な先制医療、ICTを活用した新規医療

サービス・健康関連ビジネスの創出

※ 共同研究の進捗によって内容の変更はありうる。



国立循環器病研究センター

健康寿命延伸に向けた
共同研究に関する協定

FUJITSU

shaping tomorrow with you

循環器病に関する
情報・知見

多様な情報
サービス技術

移転後の国立循環器病研究センター イメージ図



エビデンスを広く還元
循環器病の予防・制圧
国民の健康寿命延伸に寄与

・生活習慣(食事・運動・睡眠・口腔ケア等)のデータ収集・解析
・行動変容を促す新たな介入方法の開発